# 令和5年度　蕪城小学校 前期学校評価結果・分析・改善策

| | | 上段:児童<br>中段:保護者<br>下段:教員 | A+B | A | B | C | D | 分析 | 今後の分掌方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 授業 | 授業はわかりやすい。 | 98 | 73 | 25 | 1 | 1 | ○昨年度前期同様、全ての項目において、95%を超えているため、良好だと言える。さらに、昨年度と比較してA評価が児童アンケートで+3%、CD評価で−2%となり、教職員の日ごろの教材研究及び教材の工夫が児童のわかる、できるにつながったと考える。しかしながら、保護者アンケート及び教職員アンケートでは、A評価が微減となり、今後、校内研究とつなげた授業改善が必要である。<br>▲保護者アンケートのCD評価が5%となり、児童が活躍する場をより授業で設定していく必要がある。 | ・2学期以降もねらいを明確にした見方・考え方を働かせる授業づくり及び授業改善を目的とした計画的かつ効果的な全体研究授業やブロック研究授業を実施するために、全体研究会の充実及び外部講師を招致していく。<br>・週1回の学年研において、「後半充実型授業デザイン」のチェックを月2回（国語を中心）実施していく。（達成率90%以上を目標）<br>・校内研究の実践や校内外の研修について月2回程度、研究便りを発行し、授業改善に生かしていく。 |
| | | お子さんは、授業はわかりやすいと思っている。 | 95 | 53 | 42 | 4 | 1 | | |
| | | ねらい（育みたい資質・能力）を明確にした授業を行っている。 | 100 | 64 | 36 | 0 | 0 | | |
| 2 | 家庭学習 | 学校でも、お家でも進んで学習に取り組んでいる。 | 94 | 65 | 29 | 4 | 1 | ○昨年度前期同様、全ての項目において、90%を超えているため良好だと言える。特に、児童アンケート及び保護者アンケートのCD評価において、昨年度より-5%であった。教職員の児童へのこまめな声かけや指導に効果があったと考える。また、家庭学習強化週間においても、96.3%を超えているため、児童の家庭学習の習慣化、さらには保護者の家庭学習への声かけの意欲の向上が図られたのだと考える。<br>▲児童アンケート及び保護者アンケートのCD評価が下がったものの、今後は、明らかとなった未習慣児童への個別の支援を実施する必要がある。 | ・自主学習において自学ノートによる学力向上を目標として、児童玄関前の「自学の広場」を週1回更新し、児童の良いモデルを視覚的に示していく。<br>・家庭学習強化週間において、1学期は96.3%の達成率であったため、さらなる向上を目指したい。そのために、学年研において、未習慣児童の把握や対応について引き続き、共通理解を図っていく。<br>・9「保健食育」の取り組みと連携し、計画的な家庭学習を行うために保護者に協力を呼びかけ、家庭学習の開始時刻を決めて、家庭学習の充実と学校での集中した学習につなげていく。 |
| | | ご家庭で、進んで学習に取り組むように声をかけている。 | 94 | 47 | 47 | 4 | 1 | | |
| | | 学習に主体的に取り組み、家庭学習で学んだことを生かすように指導している。 | 97 | 55 | 42 | 3 | 0 | | |
| 3 | 聞く | 相手の話をしっかり聞いて、こたえている。 | 97 | 68 | 29 | 2 | 1 | ○昨年度前期同様、全ての項目において、95%を超えているため、良好だと言える。特に、児童アンケートのA評価が昨年度より+8%となり、児童の聞く意識の向上が見られた。さらに、教職員アンケートのA評価も昨年度より+11%となり、授業中の伝え合いの指導の徹底が図られていると感じた。今後も、児童と教職員で伝え合いの姿を具体的に共有していくことが必要である。 | ・今後も月1回のぶじょっこ集会において、話す聞くの姿勢や効果について児童と教師で共通理解を図っていく。8月～10月の話す聞くの月目標「同じことが言えるくらい聞こう」では、目標数値を95%に設定し、相手意識をもった聞き方を徹底していく。さらに、集会では反応モデルを示し、視覚的に児童に反応する良さを感じさせていく。また、2学期以降は総合的な学習の時間や生活科、国語科において多くの学習発表の場が設定されているため、カリキュラム・マネジメント「伝え合う力」を意識して、付けたい力の中に聞く視点を設け、更なる向上を図っていく。 |
| | | 相手の話をしっかり聞くように、声をかけている。 | 97 | 61 | 36 | 3 | 0 | | |
| | | 相手の話をしっかりと聞いて、こたえるように指導している。 | 97 | 70 | 27 | 3 | 0 | | |
| 4 | 書く話す | 1年生　:自分の考えを伝えている。<br>2年生以上:自分の考えを伝えるときに、根拠や理由を書いたり | 95 | 63 | 32 | 4 | 1 | ○昨年度同様、児童アンケート及び教職員アンケートで95%を超えているため、良好だと言える。さらに保護者アンケートも昨年度から引き続き80%を超えている。特に、児童アンケートではA評価が昨年度より+8%、CD評価も-4%であり、授業で確実に理由や根拠を書いたり、伝えたりしている児童が増えていることが分かった。今後は、本校がめざす協働的な姿になるように、さらに理由や根拠を明確に伝える、書ける場面を工夫していきたい。<br>▲保護者アンケートのCD評価が17%となり、まだまだ家庭生活の中で、理由や根拠が不明確な状態があり、学校と家庭で連携を図る必要がある。 | ・今後も月1回のぶじょっこ集会において、書くことや話すことに理由や根拠を付ける良さや効果について教師と児童で共通理解を図っていく。8月～10月の月目標「たくさん書こう」では様々な行事が点在する中で、たくさん書かせることのできる好機であり、児童の思っていることや考えていることをたくさん表出させていきたい。授業の中で、理由や根拠を入れて書く指導を重点的に行い、目標数値を96%に向上させていく。さらに、11月～12月の月目標「書いたものを見直そう」では、自分の書いたものや友達の書いたものに理由や根拠があるのかの視点を入れた交流を設定していく。<br>・二学期以降も家庭学習強化週間等の期間を中心に、保護者に児童のノートの理由や根拠が書かれているノートを見て頂けるように呼びかけていく。 |
| | | お子さんは授業で、自分の考えを伝えるときに根拠や理由を表現するように努めている。 | 82 | 33 | 49 | 15 | 2 | | |
| | | 1年生　:自分の考えを伝えるように指導している。<br>2年生以上:自分で考えを伝えるときに、根拠や理由を書いたり話したりするように指導している。 | 100 | 76 | 24 | 0 | 0 | | |
| 5 | 集団生活 | いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。 | 97 | 83 | 14 | 2 | 1 | ○児童のAB評価が97%、保護者のAB評価が96%であり、昨年度と比較すると保護者は横ばいであったが、児童は+3%と上昇が見られた。また、児童のA評価は83%で、昨年度比+3%であった。これまでに行ってきた、いじめ対策に関する年間指導計画に基づく授業実践や、児童面談の実施、友だちアンケートの活用、生徒指導事案に対する迅速・丁寧な対応等、一定の効果があったと捉えている。<br>○教員の評価については、今年度もAB評価が100%であり、A評価も76%と昨年度比で+8%であった。いじめに対する教員の指導が、児童の安心感につながっていると感じていることが分かる。<br>▲昨年度同様に、児童・保護者の中には一定数いじめ等の不安を抱えながら学校生活をおくっていることが分かる。保護者のA評価も−2%であったことや無記名式の友だちアンケートでは「悪口、無視」を訴える児童がいることを考えると、友だち同士の関わり方や言葉のかけ方について改善を図る必要がある。 | ・2学期以降も、「いじめに関する年間指導計画」をもとにした、道徳・学活の時間に、いじめを自分事として捉えられるような指導を継続するとともに、児童間のトラブルに対する組織的な対応、毎月の友だちアンケートや児童面談での丁寧な聞き取り、学年の実態に合わせた指導も継続して行っていく。<br>・「ぶじょっこなかよし宣言」について、運営委員会や生活委員会から、全校児童に向けて毎日の昼の放送で呼びかけながら、友だちとの関わり方について、先生方からも再指導を行っていく。<br>・より一層の学級経営の安定や学年集会の充実を図り、児童の言動や行動で気になる姿についてタイムリーな指導を行うことで、学年全体で「いじめは許されない」という意識を高め、望ましい関わり方を指導していく。<br>・生徒指導案件に対する教員の報告・連絡・相談をより徹底できるように、8月・9月のOJTや若プロ、月に1回の生徒指導だより で発信していく。また、指導内容等を保護者に連絡する際には、より丁寧な対応を行っていく。 |
| | | お子さんは、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごしている。 | 96 | 75 | 21 | 3 | 1 | | |
| | | 子どもたちが、いじめられたり無視されたりすることなく安心して過ごせるよう指導している。 | 100 | 76 | 24 | 0 | 0 | | |
| 6 | 集団生活 | 学校は楽しい。 | 96 | 80 | 16 | 3 | 0 | ○児童のAB評価は96%で、昨年度比で横ばいであったが、高い水準を維持している。保護者のAB評価に関しては、AB評価が95%であり、家庭で見る児童の様子から、学校での様子や楽しさが伝わり、安心感にもつながっていると捉えている。<br>○5の項目同様に、教員から見た児童の姿を評価する項目であるが、AB評価は100%であり、日々の学校生活の中で、児童面談の実施やトラブルが起きた時の丁寧な聞き取り、納得できる指導を行ってきたことが結果につながっていると捉えている。<br>▲児童・保護者・教員ともに高い割合であるが、いじめ同様、一定数楽しさを感じられずに過ごしている児童がいる。また、A評価を見ると昨年度比で、児童−2%、保護者−4%、教員−24%と全対象においてマイナスであった。楽しさを感じられない理由は、人それぞれであると思うが、オーダーメイド対応（個に応じた対応）をより一層強める必要がある。 | ・2学期以降も、月に1回の友だちアンケートや学期に2回程度の児童面談で児童の不安感に対して児童に寄り添った聞き取りを行うことはもちろん、教員の日々の見取りを大切にし、児童の目標を共有することで内面把握を行っていく。また、気になる児童については定期児童理解の会や学年児童理解の会で情報共有を行っていく。<br>・月に1回の児童アンケートの結果から、CD評価が見られる児童や「楽しくない」と答える児童に対して、困り感に寄り添い、日々の声かけや面談による励まし、努力の過程等を認めることで児童の安心感につなげられるようにしていく。 |
| | | お子さんは、学校は楽しいと思っている。 | 95 | 71 | 24 | 5 | 1 | | |
| | | 子どもたちは、学校で楽しくすごしている。 | 100 | 54 | 46 | 0 | 0 | | |
| 7 | 挨拶 | いつでもどこでも自分から、気持ちのよいあいさつをすることができる。 | 96 | 69 | 27 | 3 | 1 | ○児童のAB評価は、96%で昨年度と比較すると+2%と改善が見られている。A評価も69%と、昨年度比で+8%と、あいさつに関する取組や指導について一定の効果が見られ、自発的なあいさつをしようという意識の高まりが見られたと捉えている。<br>▲保護者のCD評価が16%と、昨年度比で+2%と割合が増えていることからも、「家庭や地域であいさつをすること」について課題がある。<br>また、教員のAB評価の割合は100%であるものの、A評価が79%と、昨年度比で−6%であったことから、教員のあいさつに関する指導の意識を再度高めながら、併せて家庭や地域への協力を求め、粘り強く指導を継続する必要がある。 | ・2か月スパンであいさつに関する生活目標（スモールステップ）の掲示し、年間を通してあいさつへの意識を高めていく。また、「あいさつへの価値づけ」や「日々のふり返り」を継続し、児童のよい姿を認める声かけを継続する。地域であいさつの意識や感謝の気持ちをより高めるために、9月以降、地域の見守り隊の方の名前入り写真を掲示していく。<br>・生活委員会を中心とした毎日の「あいさつ運動」を継続していく。また、あいさつ指導に関する学校での取組を学校便りやHP、保護者向けの生徒指導だより等で発信することや、学校運営協議会等の機会を通して、保護者・地域でのあいさつの指導の意識をより高め、地域でのあいさつの向上につなげていく。 |
| | | お子さんは、学校や地域、家庭で自分からあいさつをしている。 | 84 | 41 | 43 | 14 | 2 | | |
| | | 率先垂範であいさつをし、よいあいさつを認めたり価値づけを行ったりしている。 | 100 | 79 | 21 | 0 | 0 | | |
| 8 | 自己有用感 | 自分や友だちのよい所を認め、思いやりのある温かい言葉を伝えている。 | 96 | 69 | 27 | 3 | 1 | ○保護者のAB評価が99%、教員のAB評価が100%と高い水準を維持できていることで、児童のAB評価も96%と昨年度からの水準を維持できている。児童のA評価も69%で、昨年度比+1%とわずかではあるが伸びを感じることができる。児童の自己有用感を育むための「児童同士の認め合い活動」「児童の努力点や工夫点に沿った大人からの認める声かけ」は効果があると捉えている。<br>▲児童のCD評価が4%であることから、自己有用感を育むための取組は継続してきているものの「人の役に立てている」という気持ちや「自分には良い所がある」という気持ちに自信がない児童がいることが分かる。また、D評価も1%あることから、これまで以上に一人一人を見取り、丁寧な声かけを行う必要がある。さらに、教員のA評価も69%と、昨年度比で−4%になっていることから、児童への認める声かけを学校全体の取組として、再度徹底していく必要がある。 | ・2学期以降も、「キラキラカード」や「ありがとうポスト」の取組を継続していく。また、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングにおいても定期的に実施することで、児童相互の認め合い活動や思いの伝わる気持ちのよい話し方や聞き方を身につけさせていく。<br>・毎月末にC4thの「いいとこみつけ」を入力する日を設け、児童一人一人のよさを、学年児童理解の会等で共有し、児童に対する直接的・間接的に認める声かけをより一層充実させていく。<br>・たて割り活動を活かして、それぞれの学年に応じた役割等を丁寧に学年、学級指導を行ってから活動に参加させていく。また、活動をした際（たてわり遊び・たてわり掃除等）には丁寧なふり返りを行うことで、有用感を育めるように指導していく。<br>・道徳等の授業や学級経営の推進により、思いやり等望ましい関わり方を更に指導していく。 |
| | | お子さんの努力していることや頑張りを、ほめたり認めたりしている。 | 99 | 69 | 30 | 1 | 0 | | |
| | | 児童の頑張りを、直接的・間接的に認める声かけを行っている。 | 100 | 69 | 31 | 0 | 0 | | |
| 9 | 保健食育 | 自分の健康を考え、生活リズムを整えて、好き嫌いなく感謝して給食を食べている。 | 96 | 68 | 28 | 4 | 1 | ○児童のAB評価が、96%と、昨年度比で+2%であった。教職員のAB評価も昨年度に引き続き100%であり、栄養教諭を中心とした食への指導を継続してきたことで意識の高まりが見られる。<br>▲保護者のCD評価が18%で、昨年度比では横ばいであったが、AB評価が昨年度比で−2%、A評価も−3%と若干意識が弱くなっている。<br>家庭での食事については今後も啓発を続けることで意識を高めていく必要がある。 | ・2学期以降も、「早寝・早起き・朝ごはん」をキーワードに、生活リズムの乱れがないように指導を継続していく。特に、就寝時刻（低学年9時　中学年9時30分　高学年10時）をより意識させるように、定期的に指導を行っていく。<br>・栄養教諭を中心とした食に関する指導や養護教諭を中心とした保健指導を定期的に行うことで、児童の意識を高められるようにしていく。また、学校での取組を学校便りや食育だより、HP等で保護者に発信していく。 |
| | | お子さんは、生活習慣を整え、好き嫌いなく感謝して食事をしている。 | 81 | 35 | 46 | 16 | 2 | | |
| | | 望ましい生活習慣、及び感謝してできるだけ残さず給食を食べるように指導している。 | 100 | 72 | 28 | 0 | 0 | | |
| 10 | 人間関係作り | 話し合ったり協力したりして、みんなのために動いている。 | 97 | 70 | 27 | 2 | 1 | ○児童・保護者・教職員ともAB評価は95%を越えている。昨年度と比べてA評価については、児童では10%増加し、保護者・教職員では3～5%減少してきている実態が見られるが、概ね人間関係作りの大切さが意識されていると考えられる。<br>○児童評価については、昨年度よりA評価60%から、+10%上昇している。「話し合い」の中心であるぶじょっこミーティングの取組だけでなく、コロナ禍以前の活動に戻りつつある中で、「たてわり活動」「委員会活動」「係活動」などが充実することで、子供たちが協力できる場面が多くなってきている。<br>▲保護者のA評価が-5%と数値が減少していることから、家庭での声かけや頑張りを認められるような発信を考えていく必要がある。 | ・月1回程度のぶじょっこミーティングの取組を継続し、具体的な話し合いの場面や児童への働きかけを発信することで、話し合い活動の手法を共有できるようにしていく。また、話し合って決めたことを実践することで、話し合い活動や協力することの良さを更に実感させ、子供たちが話し合いたいと思えるサイクルを生み出すようにしていく。<br>・2学期以降の学校行事やたてわり活動での認める声かけを大切にしながら、子供たちが協力し合える場面や機会を持てるようにしていく。6・7月生活目標「委員会活動に参加しよう」での意識を継続させるために毎月1回のぶじょっこ集会でも声をかけ、代表委員会の充実と合わせて委員会活動の充実を図るようにしていく。<br>・毎月1回以上児童の姿やがんばりを学校や学年で伝えたり、HP等で良さを紹介したりことを継続していく。 |
| | | お子さんは、友達と協力して学校生活を送っている。 | 97 | 65 | 32 | 2 | 1 | | |
| | | ぶじょっこミーティングや行事を通して、子供たちが成長を実感できるように指導している。 | 100 | 67 | 33 | 0 | 0 | | |
| 11 | 体力向上 | 自分のめあてをもって、あきらめず運動している。 | 98 | 84 | 14 | 1 | 1 | ○児童・保護者・教職員ともAB評価は95%を越えている。特に児童AB評価では+4%、児童CD評価では4%の減少となるように、運動への意識が向上が見られた。コロナ禍以前に戻りつつある中で、体育館や外遊びの機会が増えたことと、「体育だより」による体育の授業にアプローチしていくことで、児童が前向きに運動に取り組めている様子が分かる<br>▲保護者の評価の割合についてAB評価は昨年並みであるが、A評価は−2%と微減している。また、児童CD評価も昨年度と同様2%いることから、運動に苦手意識をもつ児童を一定数いることがわかる。 | ・学校行事として運動会に全力で取り組むとともに、持久走旬間（10月中旬～）やなわとび旬間（1月上旬～）では学習カードをつくり、自分のめあてを設定し取り組ませることで、達成感を得られるようにしていく。<br>・2学期以降も「体育だより」を通して、児童が楽しめる運動などを紹介していく。また、苦手な児童が運動の楽しさを感じさせるために、器械運動系のOJTを実施し、安全指導やコツを伝えることで、児童の成功体験を増やしていく。 |
| | | お子さんは、体を動かすことを楽しいと思っている。 | 94 | 72 | 22 | 6 | 1 | | |
| | | 1校1プランに基づき、子供たちが体力向上できるように指導している。 | 100 | 71 | 29 | 0 | 0 | | |
| 12 | 働き方 | | | | | | | ○AB評価は98%であり、昨年度前期と同じ数値となっており、教職員一人一人が業務改善を意識しながら日々の業務にあたっていることが窺える。ただし、A評価は昨年度と比較し、−7%となっており、業務改善の余地はあると考える。<br>▲AB評価が100%にならなかったことやC評価があったことも踏まえ、業務改善につながる取組や環境整備等を行っていく必要がある。 | 2学期から、一日あたりの時間外勤務を約20分削減する「ぶじょっと−（マイナス）20プロジェクト」を実施していく。具体的には、業務改善のアイデアを全員で出し合い（クラウド上）、自分が実行できそうな作戦をその中から1つ選択（P）し、1か月実施（D）していく。その後、毎月1～2分程度で終わる簡易アンケートを行い、自己評価（C）し、作戦の再選択（改善…A）を行い、このPDCAサイクルを繰り返していく。このプロジェクトを実施することで、様々な業務改善のアイデアを共有していく。AB合わせて100%かつA評価90%以上を目標としていく。 |
| | | 子供によりよい教育を行うための、業務改善に意識して取り組んでいる。 | 98 | 49 | 49 | 3 | 0 | | |